

まえがき

この本は、東日本と西日本の文化のちがいを紹介したものです。

1巻では「年中行事と食文化」について、この2巻では「生活全般」について、3巻では「ことばと遊び」について紹介しています。

名字は、西日本には「田中」が多いけれど、東日本には「佐藤」が多い。縄文土器は、西日本のものはシンプルだけど、東日本のものは派手。

電気の周波数は、西日本は60ヘルツだけど、東日本は50ヘルツ。

セミの鳴き声は、西日本では「シャアシャアシャア」だけど、東日本では「ミンミン」。

この2巻では、このように実にさまざまなジャンルの東日本と西日本のちがいを紹介しています。東日本と西日本のちがいといえば、食べ物やことばがよく知られていますが、こういった驚くようなものにもちがいがあることを楽しんでもらえたらと思います。

なお、東日本、西日本のなかにもいろんな文化圏があるため、さまざま

な例外があることもご了承ください。

この本を読むと、こういったちがいが生まれたのには、いろんな理由があることがわかると思います。

「ちがい」を見つけたとき、単に「ちがう！」と思うだけでなく「なぜちがうんだろう？」と考えてみてください。

きっとそんな疑問のひとつひとつが、あなたの住む町、そしてあなたが住む国への理解を深めてくれることと思います。

そして、この本を手にしたみなさんには、できるかぎりこういったちがいを楽しんでもらいたいと思います。

この日本のなかに、いろんな文化のちがいがある。それは旅をするときや、いろんな人と出会うときの、とても楽しい要素になってくれると思うのです。

岡部 敬史

も く じ

電気の周波数 なぜ東西でちがうのか?	4
色がちがうもの ポリタンクの色は青と赤	6
エスカレーター 右側に立つと左側に立つ	8
バスの乗車口 前から乗ると後ろから乗る	10
面積 広くて人口が多いのはどちら?	12
夜になる早さ 暗くなる時間がちがう!?	14
伝統・文化が生み出したモノ 金封と扇子とのれん... ..	16

土器と城壁 シンプルと派手	18
大きさがちがうもの 畳と表札と風呂の桶	20
名字 西日本には「田中」が、東日本には「佐藤」が多い!	22
気候・風土が生み出した道具のちがい 屋根と火鉢と鎌... ..	24
落語高座のスタイル 上方落語と江戸落語	26
尻尾の形が関西と関東でちがう ネコの尻尾と狒犬の尻尾	28
自然界でちがうもの セミとモグラとホタルもちがう!?	30

なぜ東西でちがうのか？

みなさんが家や学校などのコンセントから取る電気は「交流」というしくみで、乾電池からの「直流」と異なり、電気の大きさや向きが定期的に変化します。この変化は波のように規則正しく起こり、その変化が1秒間に何度あるか



西日本は60ヘルツ

を「周波数（ヘルツ）」という単位であらわします。

周波数のちがいは電気製品にも影響を与え、国ごとに統一されるのが一般的ですが、日本では、東日本は50ヘルツ、西日本は60ヘルツと東西で異なっています。

これは、日本で電気を使うようになった明治時代に、東京では50ヘルツのドイツ製の発電機を、大阪では60ヘルツのアメリカ製の発電機を採用したためです。たとえば東日本で電力が不足したとき、西日本から融通することが難しいのは、この周波数のちがいによるものです。



現在では、どちらの周波数でも使える家電が多く、一般的には不便を感じることも少なくなりましたが、電子レンジや洗濯機、乾燥機などには、部品の交換が必要な電化製品もありますので、異なる周波数の地域で使うときには注意が必要です。

この50ヘルツと60ヘルツの境界線となっているのが、新潟県の糸魚川と、静岡県の富士川を結ぶ線で、これによれば新潟県、群馬県、山梨県、そして静岡



東日本は50ヘルツ

岡県の東半分が東日本。富山県、長野県、そして静岡県の西半分は西日本となります（新潟県と長野県の一部には50ヘルツと60ヘルツが混在する地域もあります）。

また電話網を担うNTTは、新潟、長野、山梨、神奈川からがNTT東日本エリアになり、富山、岐阜、愛知、静岡からがNTT西日本エリアになっています。

他にもいくつかの東日本と西日本を分ける考え方がありますが、おおよその境界線は、新潟、長野、山梨、静岡あたりにあり、長野県と静岡県を、東日本、西日本のどちらかにするかで、意見が分かれることが多いようです。



ポリタンクの色は青と赤

ストーブなどの燃料として使われる「灯油」を入れるポリタンクは、西日本と東日本で色がちがうという不思議な特徴があります。その色とは、西日本と北海道では「青」であるのに対して東日本では「赤」であるのが一般的です。



6

ポリタンクは、透明なものでなければ色の決まりがないようですが、なぜこのようなちがいが生まれたのでしょうか。

東日本の「赤」というのは、理由はシンプルで「危険なものである」ということを示すために決められた色です。一方、西日本の「青」というのは、色を染める材料である「青の顔料」が安かったので、この色になったという説があります。本当なのかなと不思議に思いますが「ブルーシート」という地面に敷いたり、ものをおおったりするシートが青色になったのも、この青の顔料が安かったためと考えられているので、本当のようです。

ポリタンクの色は「西日本が青」で「東日本が赤」でしたが、好まれる色はこの逆で、西日本では赤やオレンジなど「暖色系」の色が好まれ、東日本で

は青や緑などの「寒色系」の色が好まれます。

これは日本だけではなく、東南アジアなどの暖かいところでは暖色系の色が好まれ、北欧などの寒いところでは寒色系の色が好まれることから、世界で共通するちがいです。こういったちがいが生まれるのは、気分だけの問題ではなく、暖かい地域と寒い地域では光が大気層を通過する距離がちがうなどの理由から、暖かいところでは暖色系の色がきれいに見え、寒いところでは寒色系



7

の色がきれいに見えるからだとされています。

また西日本の沖縄と東日本の北海道では、海の色がちがうことをご存知ですか。沖縄はエメラルドグリーンのような色であるのに対して、北海道の海は黒っぽい色をしています。寒い北海道の海のほうが、暖かい沖縄の海よりも海中の酸素の量が多く、海中にたくさんのプランクトンが発生しているためだと言われます。また光の強さや海の深さもその要因となっているようです。